

H23 年度科学・技術関係予算概算要求 個別施策ヒアリング

【施策番号 25105：生活習慣病・難治性疾患克服総合研究

(2) 腎疾患対策研究 (3) 免疫アレルギー疾患等予防・治療研究 (厚生労働省)】

- 1 日時：平成 22 年 9 月 16 日 (木) 16:20～16:40
- 2 場所：中央合同庁舎 4 号館 12 階 共用 1208 特別会議室
- 3 聴取者：本席議員、奥村議員、相澤議員
外部専門家 6 名 (うち若手 2 名)
- 4 説明者：厚生労働省 健康局疾病対策課 難波 課長
健康局疾病対策課 眞野 補佐
東京医科歯科大学 膠原病・リウマチ内科 宮坂 教授

5 施策概要

腎疾患対策研究

腎機能低下が長期にわたり進行する慢性腎臓病 (CKD) の病態解明・予防・早期発見・診断・治療・重症化防止等に資する研究を行い、早期発見から早期治療につなげる仕組みの確立を目指すことを目的とする。

免疫アレルギー疾患等予防・治療研究

リウマチ、気管支喘息、アトピー性皮膚炎、及び花粉症などの免疫アレルギー疾患について、発症原因と病態との関係を明らかにし、予防、診断及び治療法に関する新規技術を開発するとともに、自己管理方法や治療法の確立を行うことにより、国民に対してより良質かつ適切な医療の提供を目指すことを目的とする。また、造血幹細胞や臓器移植をはじめとする移植医療においては、拒絶反応の抑制などにより治療効果を向上させるとともに、ドナー及びレシピエント双方の安全性確保などにより、適切な移植医療の推進のための社会的基盤の構築を目的とする。

6 質疑応答模様

【本席議員】

目標に例えば、ペースをどれ位下げる等、ある程度数値目標的なものを入れ、そこに資金投入しないと、様式 6 が非常に抽象的。また、花粉症の舌下免疫療法の展望をお聞きしたい。

【厚労省】

舌下免疫療法については、未だすぐに臨床で実施していける段階ではなく、数年単位のスパンは必要。有効な使用量や使用方法を模索している段階である。

【本席議員】

Phase に入る前、治験に入る前の段階？

【厚労省】

現時点ではそのとおり。

【厚労省】

腎疾患については、5年後に導入予測される透析患者を15%減らすということを目標に挙げている。

【外部専門家】

花粉症の舌下療法に用いる医薬品の候補とは、ペプチドワクチンをさすのか。

【厚労省】

ペプチドワクチンではない。基本的には、抗原物質を使った治療法で、抗原エキスをを用いる。

【外部専門家】

喘息の死亡率がずっと下がってきているが、喘息に対する次の手は考えているか。

【厚労省】

現在の治療水準は、大発作のような重度の喘息発作や喘息死自体はある程度抑えられる段階である。今後の傾向としては、ある程度の段階で喘息死が下げ止まる可能性が高いとの専門家からの意見がある。症状の軽重ではなく、管理することが困難な難治性の喘息や、喘息死2,348人の内86%を占めている高齢者の喘息に対し、更なる研究と対策が必要と考える。

【外部専門家】

吸入ステロイドのところ、最初のガイドラインが出た頃はこのいわゆる代謝が安定な新規のステロイドの吸入剤が出た頃か。

【厚労省】

実際にはベタメタゾンという比較的有効性の乏しい吸入ステロイド薬は85年以前からあり、93年に作成したガイドラインにおいて、吸入ステロイド薬の使用を推奨していた。特に有効性の高いものが98年頃に販売され、そこを起点に喘息死が減少している。ガイドラインによる吸入ステロイド療法の普及と吸入ステロイド薬自体の進歩により、相乗効果として非常に喘息死が抑えられたと考えている。

以上